



生物安全実践講習会



第4回“基盤コース”募集要項

日時：令和4(2022)年8月4日(木) 9:00～17:15 (受付開始 8:45)

会場：食品衛生センター ホール 東京都渋谷区神宮前 2-6-1

(公益財団法人 日本食品衛生協会 5階)

※アクセス：東京メトロ銀座線・外苑前駅(3出口)より徒歩7分

受講料：1名 20,000円 受講者全員に修了証を授与致します。

対象者：病原体の基盤知識を必要とされる、医療・衛生機器、食品加工機器、建築設備等の

開発・設計や医療・介護、食品、スポーツ施設、実験室等の維持管理に従事される方

資格認定：資格試験合格者のうち希望者に“生物安全技能士”認定証を授与致します。(認定料2万円)。

募集定員：32名(三密を避けるために210名定員のホールを使用いたします)

申込方法：ウェブサイト<<https://forms.gle/4Xh5RUPfeupzVz8dA>>にある申込フォームから受け付けます。

※セキュリティ設定等でアクセスが困難な方は、事務局へご一報ください。

申込締切：2022年7月5日(火) 但し、定員に達し次第締切りとさせていただきます。

事務局：生物安全実践講習会運営事務局 担当：清水雅俊(shimizu@fwf.or.jp)



感染対策：体調確認、検温、手指消毒、マスク着用、換気、ソーシャルディスタンスなど

プログラム

(※一部変更される可能性がありますことをご確認ください)

開講挨拶	生物安全実践講習会運営委員長挨拶	吉川 敏一 ルイ・パストゥール医学研究センター
ガイダンス	生物安全講習会概要	堀田 国元 機能水研究振興財団
座学 1	感染症概論	木ノ本 雅通 元国立感染症研究所
座学 2	病原体概論Ⅰ－細菌－	中野 隆史 大阪医科薬科大学医学部
座学 3	病原体概論Ⅱ－ウイルス－	吉澤 重克 元千葉県家畜衛生研究所
座学 4	感染防御概論Ⅰ－感染経路対策－	本間 茂 機能水研究振興財団
座学 5	感染制御概論Ⅱ－消毒・滅菌法－	岩澤 篤郎 東京医療保健大学
昼食休憩 (昼食は事務局にて準備致します。)		
特別講演	生物安全に関わる今知っておくべき新知識・新情報	※著名な感染症専門家にご講演いただくべく調整中です。
実習	グループに分かれ以下 A～D 4つの実習項目をローテーションにて実施します。	
A: 衛生的手洗い	B: ATP ふきとり検査	C: 動く細菌の直接観察
		D: 個人防護具(PPE)の着脱
総合討論	質疑	司会 木ノ本 雅通・吉澤 重克
理解度確認兼資格認定試験		

生物安全実践講習会 基盤コース

講習会風景 (2020年8月)



検温、手指消毒、N95マスク、3密回避、
窓開け換気、対人距離確保

座学の後の実習では、マスク装着、生きている細菌の顕微鏡観察、衛生的な手洗いおよび手洗い後の清浄度チェックについて解説を聞いたうえで、受講生は各自実習訓練を行った。

実習の様子：衛生的な手洗いとATPふき取り検査

衛生的な手洗い：
サラヤ(株)



手洗い後の清浄度チェック：
キッコーマンバイオケミファ(株)



実習の様子：マスク装着と細菌の顕微鏡観察

マスクの正しい装着：興研(株)



スマホ顕微鏡で見る細菌観察：(株)mil-kin





生物安全実践講習会



新たな感染症対策の教育の場

第4回“基盤コース”開催のご案内

問合せ・連絡先: 講習会運営事務局 清水 雅俊 shimizu@fwf.or.jp

標記2団体では共同公益事業として感染症教育の場を立ち上げることになり、国立感染症研究所など公的研究機関出身の感染症専門家の協力・指導ならびに関係企業の賛同を得て2018年から制度設計やカリキュラム(座学と実習:次頁参照)構築などの準備を進め、2020年2月開催の基盤コースから実施が始まりました。

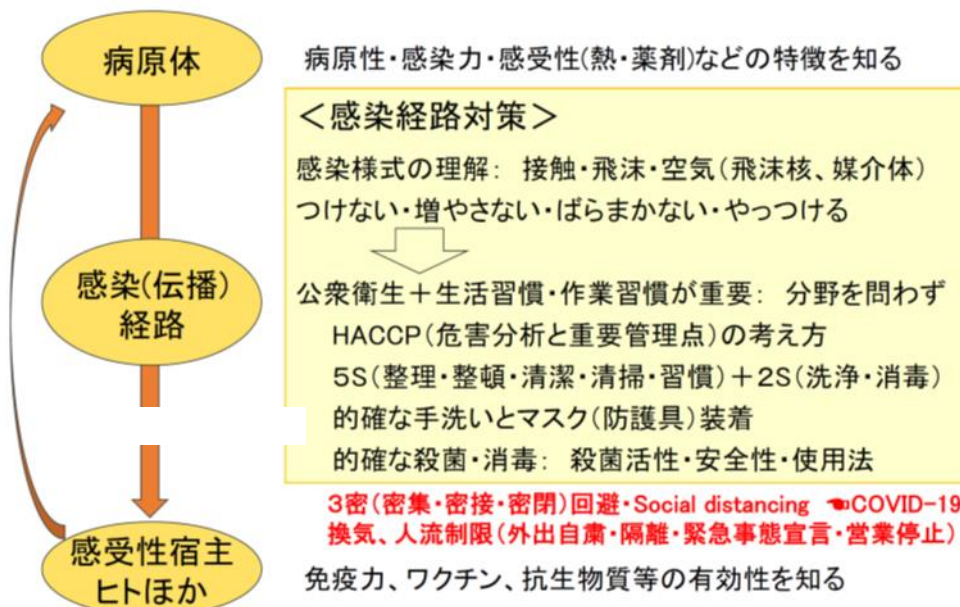
本講習会は、施設内感染対策を念頭に、法令を含めて病原体(病原微生物)とその取扱い、感染予防のための衛生管理、感染症発生後の危機管理などについて座学と実習を実施することを基本内容とし、以下の4コースを計画・実施して行きます。講師には各座学に的確な専門家を配し、また最新の知識・情報に関する特別講演をアレンジします。

1. 基盤コース: 病原体に関する基盤知識必要者
医療機器、衛生器材、機器・実験室メンテナンス、建築、スポーツ施設などの従事者
2. 実践コースA: 受動的に病原体に接触する可能性のある人
食品施設、介護施設、歯科施設、関係行政機関などの従事者
3. 実践コースB: 能動的に病原体を取扱う人
大学等のバイオセーフティ実験施設、保健所・検疫所・医療関係施設の従事者
4. 特別コース: 特別事案(危機管理)従事者
病原体運搬、薬剤耐性菌対策、輸入感染症対策等の従事者

感染症の発生・流行は、下図のように、病原体、感染経路および宿主(ヒト)感受性の3条件が揃って起きます。従って、これらに関連する的確な知識と技術を学び身に着けることが、病原体の感染を防ぎ、感染症に対する個人や社会の安全性を高めていく上で不可欠です。しかしながら、こうしたことを学ぶことのできる教育の場は極めて限られています。

受講者の方には、講義テキスト(下図)と副読本を事前に配布し、予めお目通しの上講習会に臨んでいただきます。

感染症の発生要因と防御対策に求められること



One Health(人間・動物・環境・食品を総合的に考える)の重要性が広がっている

基盤コーステキスト



生物安全技能士の認定及び更新制度について

講習会を受講し、資格認定試験に合格した方の社会的信用を保証するために生物安全技能士という資格認定制度を設けています。認定には別途認定料(2万円)が必要です。生物安全技能士の有効期間は3年で、継続するためには更新講習の受講が必要です。

生物安全技能士には以下の特典があります。

1. 当講習会の主催母体による学会・講演会等への優待や定期刊行物の配布
2. 生物安全や感染症対策に関わる「信頼できる情報」の提供など

さまざまな情報が飛び交う中で、生物安全に関わる知識・能力を継続的に維持・更新していくための提供です。

【情報提供の例(2020~2021)】

- ・三瀬勝利：“ばい菌学エピソード11”(かびと生活)
- ・新型コロナ対策に関する科学者の共同声明文 代表世話人:本堂 毅(東北大学大学院理学研究科)
- ・厚生労働省：新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針 改定版
- ・山内一也：“ウイルスの存在する意味”(学会報)
- ・松浦善治：大阪大学感染症総合教育研究拠点長 インタビュー記事(医療維新)
- ・花木秀明：新型コロナウイルスの特性とイベルメクチンの効果(講演動画)
- ・機能水研究振興財団：機能水ニュースレター (<http://www.fwf.or.jp/>)

3. 生物安全に関する疑問に対するコンサルテーション

生物安全技能士には、受講コースに応じて以下の認定証(B5 サイズ)と認定証カード(名刺サイズ)が授与されます。



実践コース A: 第二種生物安全技能士

特別コース: 第四種生物安全技能士

生物安全実践講習会「運営・専門委員会委員」

吉川敏一 (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター理事長	佐藤 勉 東海大学医学部教授
堀田国元 (一財)機能水研究振興財団理事長	関口勝美 (株)アルバーネット・高度BSL施設管理技術指導者
本間 茂 (一財)機能水研究振興財団常務理事	辻井栄作 京都大学 研究推進部 研究倫理・安全推進室
岩澤篤郎 東京医療保健大学教授	中野隆史 大阪医科薬科大学医学部教授
鹿住祐子 元結核予防会結核研究所	花木秀明 北里大学大村智記念研究所感染症制御研究センター長
菊地憲次 (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター主席研究員	藤原功一 (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター研究員
木ノ本雅通 元国立感染症研究所 細菌・血液製剤部主任研究官	三瀬勝利 国立医薬品食品衛生研究所 名誉所員
才原康弘 (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター研究員	八木澤守正 北里大学大村智記念研究所 客員教授
佐々木次雄 元国立感染症研究所 細菌第二部長	吉澤重克 元千葉県家畜衛生研究所主幹